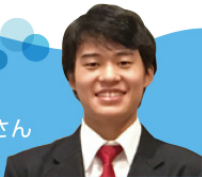


ネコギギのモニタリング合宿

おちあい まさひろ
落合 真弘さん



夜間潜水調査では、下流側から上流側へと移動しながら川全体を丁寧に調べます。ネコギギを捕まえるのは、暗闇で「影を捕まえる」ようなものです。水中ではライトを手で包み込み、指の隙間から薄く漏れる光でうっすらと見えるネコギギをタモ網ですくいます。かなり難しいので、捕れることの方が珍しいほどです。

調査は真夜中に行うので、正直とても怖いです。暗闇と川の水の冷たさが「孤独感」を感じさせます。その分ネコギギを捕まえられた時はとても嬉しいですよ！

ハードな調査ですが、過去の先輩方がこの調査を継続・発展してくれてたおかげで私たちは生息地の現状を詳しく理解することができます。



▲生息地の環境測定。物理的な環境について記録し、ネコギギの生息に好適な区画を抽出しています。



▲夜間潜水調査。川はあまり深くないので「カバ」のように少し浮きながら水底を蹴ったり、「トカゲ」のように這いつくばったりして進みます。

2004年からはじめたネコギギのモニタリング合宿は、毎年夏休みに4泊5日で実施しており、卒業生も参加して調査に協力しています。

ネコギギは夜行性の魚なので、日中に生息地の水深や底質などの物理的な環境について調べ、夜はネコギギの生息数を把握するための夜間潜水調査を行います。

調査の結果、現在は生息地に集中豪雨等で土砂が堆積し、巣が埋もれてしまったり、ネコギギの生息地としては厳しい環境にあるということが分かっていきます。それに伴い個体数が減少し、2019年は推定個体数が過去最低でした。

また自然災害だけでなく、堰堤等によりネコギギの移動が制限されるなど、人為的な影響が個体数の減少する要因となっていることもあります。

区間1における個体群の成長曲線

(区間1:2008年に発見した高密度生息地)



2008年の土砂災害で、個体数が3分の1になり、2013年に個体数が環境収容力(ある環境において、そこに継続的に存在できる生物の最大量)に達しました。2016年以降は個体数の減少が続き、区間1での2019年の推定個体数は過去最低となっています。

「企画展示」のご案内
8・9月に三重県環境学習情報センター展示ホールにて、自然科学部の活動を展示します！ぜひご覧ください。

ネコギギサミット in 三重

2019年8月、「ネコギギサミット」が三重県教育委員会主催で開催されました。会場の鈴鹿高等学校に、東海三県のネコギギ飼育施設、教育委員会、大学、企業、市民団体等が集まりました。

自然科学部も日頃の調査・研究の成果を発表し、今後のネコギギの保護について情報交換しました。

参加した部員のみならずにとっても、他の団体の取り組みや現状を知ること、視野を広げ、協力の輪を広げるよい機会になりました。



つつみ ひかり
堤 光さん

大会やイベントなどでネコギギについて伝えることができるのはとても楽しいです。さらに、そのような機会を通して私たちの活動を認めていただき、協力をしてくださる人が増えるというのはとても嬉しいです!!

また、何より重要なのは一緒に活動する仲間を増やすことです。そのために、地域の人々をはじめとした多くの人達に、ネコギギのいる自然環境について伝えて、身近に感じてもらうための普及啓発活動を工夫したいです。

地域での普及啓発活動

鈴鹿川のおさかな観察会



参加者と一緒に魚獲りをしました。参加者にネコギギやさまざまな生き物であふれる豊かな鈴鹿川に興味を持ってもらえる機会になることを期待しています。

環境イベントでのブース出展



環境イベントでは、鈴鹿川で採集した生き物や研究成果などを展示しました。訪れた幅広い世代の方に直接、活動についてお話しています。